

生成AIを活用した業務改善技法ーAIプロセスマイニングの概要から活用方法【会場】

(4126194)

本セミナーではプロセスマイニングの概要とポイント、プロジェクトの進め方を理解していただき、簡易データでの演習を予定しています。社内で業務改善・DX・生成AIの活用・RPAの導入・要件定義などを検討している方々に、ぜひご参加いただきたいセミナーです。

開催日時	2026年4月23日(木) 10:00-17:00会場	
JUAS研修分類	ビジネスアーキテクト(業務改革)、データ・AI活用・技術動向(AI・新技術 検証)	
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル	
DXリテラシー	Why(DXの背景)	
講師	尾田友志 氏 (マネジメントテクノロジーズ,LLC 代表) 株式会社 日本エル・シー・エー 経営開発部 コンサルタント、青山監査法人/ プライスウォーターハウスシニアマネージャー、日本マンパワーバリューマネージャー養成講座 主任講師、中央青山監査法人/PricewaterhouseCoopers ディレクターを経て、現職。スターティア株式会社 社外取締役(兼務)。 ＜専門分野＞経営工学(統計・オペレーションズリサーチ)・財務・管理会計 JUASオープンセミナー「ビジネスモデル構築の作業ステップと手法」、「仕様変更を最小限に抑えるヒアリング技術」、「外部データ(公共オープンデータ等)収集と分析・活用方法」など講演多数。	
参加費	JUAS会員企業/ITC：35,200円 一般：45,100円（1名様あたり 消費税込み、テキスト込み）【受講権利枚数1枚】	
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（NBF東銀座スクエア2F）	
対象	業務改善に取り組まれている方 中級	
開催形式	講義	
定員	25名	
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。（2時間1ポイント）	
ITCA認定時間	6	

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

特になし

業務改善では現状の業務プロセスをフローチャートなどで図式化していました。

このAs Isフローの作成では、従来ではヒアリング・現場視察などの手法が主となっていました。

生成AIがビジネス現場に入ってきた現在、情報システムのイベントログを取り出して分析することで、

「As Isフローの作成、As IsフローとTo Beフローの退避分析」を実施して、業務改善策の考案に結びつけていく流れになりつつあります。

これをプロセスマイニングと言います。従来型をサンプリングというのならば、プロセスマイニングは全件調査です。

また、ヒアリングによる主観的な回答をベースにするのではなく、データという客観的な分析をすることができます。

本セミナーではプロセスマイニングの概要とポイント、プロジェクトの進め方を理解していただき、簡易データでの演習を予定しています。

社内で業務改善・DX・生成AIの活用・RPAの導入・要件定義などを検討している方々に、ぜひご参加いただきたいセミナーです。

1. AIプロセスマイニングとは

・従来の業務改善とAIプロセスマイニング

・対象分野・業務（受注、購買、発注～在庫割当～出荷、問合せ対応、ヘルプデスク、債権債務管理など）

- ・ AIプロセスマイニングのステップ
- ・ AIプロセスマイニングの4つのポイント

2. データの前処理

- ・ イベントログの取得から分析可能なデータ形式への整形
- ・ イベントログで必要な項目

3. プロセス発見- Process Discovery

- ・ As-Is業務フローの自動作成
- ・ 業務のばらつき発見（複数の業務処理方法）
- ・ 時系列分析、スループットの所要時間、アクティビティの処理時間、待ち時間の分析
- ・ 問題点の発見：非効率プロセス、ボトルネック、スタッフスキルのばらつき、手戻りプロセス
- ・ 良好なプロセスの発見→標準化

4. 適合性検査-Conformance Checking

- ・ As-IsフローとTo-Beフロー（または標準業務フロー）の比較照合により、現状の問題点を特定

5. プロセス強化-Process Enhancement

- ・ 根本原因の分析
- ・ 改善施策の考案：観点=コスト削減(スループットの短縮)、顧客満足度、従業員満足度
- ・ To-Beフローのブラッシュアップ

6. 簡易データによる分析演習

7. 業務改善の知識

- ・ 人手による業務改善
- ・ システムによる業務改善：RPA、AIエージェント、システム化

8. 施策立案の演習・発表